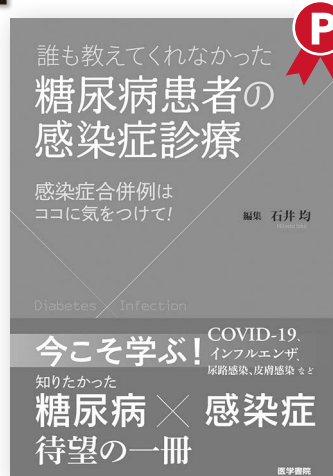


今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.108) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



誰も教えてくれなかった 糖尿病患者の感染症診療

感染症合併例はココに気をつけて！

石井 均＝編集

本体 3,400 円＋税／A5判・192 頁／医学書院／2021

糖尿病患者は免疫不全状態であり、感染症に罹患しやすいが、感染症診断が遅れがちである。また罹患すると感染症が重症化しやすいうえ、血糖コントロールも難しくなり高血糖が悪化する。「新型コロナウイルス感染症」においても、糖尿病患者は重症化しやすいと言われている。そこで糖尿病と関連の深い感染症を中心に、感染した糖尿病患者を診療する際に必要な情報を内科医向けにまとめた。



感染症レジデントマニュアル

第2版

藤本卓司＝著

本体 4,500 円＋税／B6 変判・496 頁／医学書院／2013

レジデントが直面している感染症に対し、今まさに診療で役立つ知識をまとめたマニュアル。いつどうやって起炎菌を判断し、抗菌薬は何をどのくらい使うのか？ 使うにあたっての注意事項は？ 変更・終了の規準は？ 曖昧な判断で漫然と使われがちな抗菌薬を正しく使うための知識と、国際標準に即した考え方、著者のノウハウが満載。臨床現場で活躍する医師に広くお勧めする“感染症の定本”！



感染対策マニュアル

第2版

大野義一郎＝監修

吉田美智子、藤井基博＝執筆

本体 2,400 円＋税／B5 判・144 頁／医学書院／2013

手洗いや消毒、ガウンテクニックの基本手順を写真で解説。滅菌操作が必要な人工呼吸器管理や、手術室や透析室での感染管理についても、手順が一目でわかる。MRSA やインフルエンザなど感染症別の対応は、発生から解除までの流れに沿って、感染対策のポイントが理解できる。現場の声が作り上げたマニュアルだから、忙しい臨床でもすぐに使える。患者と自分を守るために、今日からできる感染対策の実践を。



復興文化論

日本的創造の系譜

福島亮大＝著

本体 2,200＋税／A5 判・420 頁／青土社／2013

本特集Ⅲ章にご執筆の福島亮大氏 (p.69) の著書。日本文化に創造性が満ち溢れるのはどういう時期なのか——。この問いはⅣ章での安宅和人氏の示唆(p.86)にも重なってくる。今読むべき 1 冊。

戦乱や厄災からの復興期、エネルギーがほとばしり、美と力が鮮やかに結晶化する時、日本人の真の文化的冒険は開始される。“戦後”の活気溢れる表現の系譜に、いま鋭い批評家が迫る。瑞々しい視線からつむがれる、まったく新しい文明の自画像。紋切り型の「無常観」を突き抜ける大胆不敵な日本文化論。



百年の批評

近代をいかに相続するか

福島亮大＝著

本体 2,200 円＋税／B6 判・366 頁／青土社／2019

「日本は近代のテスターである」というテーゼを掲げて、オリジナルな平成文学論から、鋭角的な少国民世代論・物語論までを「第 1 部 縦に読む」「第 2 部 横に読む」「第 3 部 点で読む」という独自の切り口で一挙に展開。著者 10 年の仕事を精選し、百年の日本を展望する「近代の相続」論。

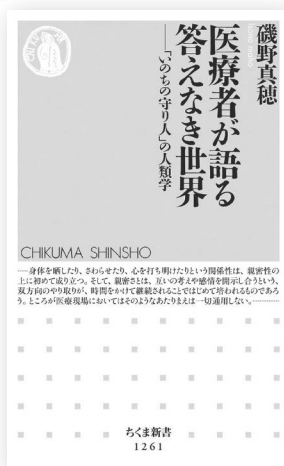


急に具合が悪くなる

宮野真生子、磯野真穂＝著

本体 1,600 円＋税／四六判・256 頁／晶文社／2019

本特集Ⅲ章にご執筆の磯野真穂氏 (p.74) が、がんの転移を経験しながら生きた哲学者・宮野真生子氏と、死と生、別れと出会い、そして出会いを新たな始まりに変えることを巡り、20 年の学問キャリアと互いの人生を賭けて交わした 20 通の往復書簡。本特集のご執筆では、この過程で磯野先生が感じていたことの一端が明かされた。もし明日、急に重い病気になったら——。見えない未来に立ち向かうすべての人に。



医療者が語る答えなき世界

「いのちの守り人」の人類学

磯野真穂＝著

本体 800 円＋税／新書判・240 頁／筑摩書房／2017

人は心身の不調を覚え、医療機関に足を運び、その原因を取り去るすべが見つかることを期待する。しかし現実の医療は曖昧さに満ちており、期待した答えが得られないために苦悩する医療者たちがいる。本書は、その「答えなき世界」を医療者たちへのインタビューをもとに描き出し、紹介する。患者と医療者がともに歩むには何が必要なのか？ 磯野氏の丹念な医療者への聞き取りによる好著。



ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ

コレクティブな協働なら解決できる！ SDGs 時代の複雑な社会問題

佐藤真久、広石拓司＝著

本体 1,800 円＋税／A5 判・192 頁／みくに出版／2018

本特集Ⅲ章にご執筆の広石拓司氏 (p.78) の共著書。Ⅳ章でも話題にのぼったSDGs (持続可能な開発目標) を念頭に、複雑な社会問題の解決プロセスの新たなありようを提示した。

会社員も、地域活動の担い手も、政府・自治体の職員も、大学など専門機関の人も、自分の経験やアイデア、できることを持ち寄ってつながり、連動して動いていくことができれば、それぞれの問題対応力が高まり、問題に対応できる仕組みも整っていくだろう。それが成功した時が、“問題に対応できる社会システム”を生み出した時。暮らしやすい新しい社会を生み出すための12ステップ！